

7月21日(土)

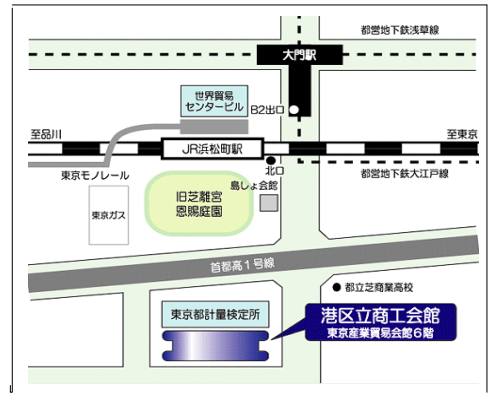
午後1時30分～5時(開場1時)

会場:港区立商工会館6F

第一会議室

東京都港区海岸1-7-8東京産業貿易会館6階/電話:.03-3433-0862

●最寄り駅:JR浜松町駅北口より竹芝桟橋方向へ徒歩7分/ゆりかもめ竹芝駅より徒歩3分/都営地下鉄浅草線、大江戸線大門駅より徒歩10分



◇シリーズ・学習会(第6回)《731部隊の国家犯罪を裁く》

資料代500円

731細菌戦部隊と 医師の戦争責任

—いわゆるQレポートから見た金子順一論文の意義について

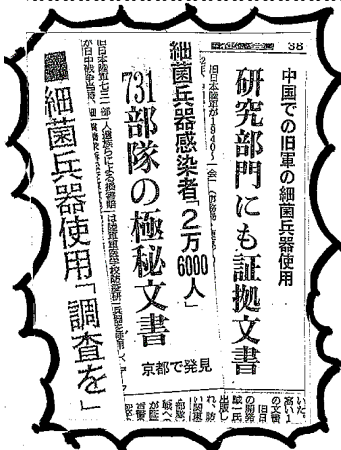
講師 筋(あざみ)昭三さん



石川県松任市生まれ。1952年、金沢大学医学部を卒業。

医療活動が続けつつ、「15年戦争と日本の医学医療研究会」の名誉幹事長として、戦争と医療の関わりについて研究・活動をされています。

著書:「戦争と医療」(かもがわ出版)、「なくなったカルテ」(あゆみ出版)ほか



◆731部隊が1940年から42年に中国でペスト菌を用いた細菌兵器を6回使用し多数の犠牲者を出したことを示す極秘報告書が発見されました(昨年10月15、16日の新聞報道)。

この報告書は元731部隊所属の金子順一軍医が1949年に東京大学で医学博士号を取得した際に提出した博士論文(1940年から44年に「陸軍軍医学校防疫研究報告」として発表した細菌戦の実施方法に関する研究論文8点を束ねたもの)です。

例えば「PXノ効果略算法」と題された1943年12月の金子論文は、太平洋や東南アジアでの細菌戦(ペストノミの撒布)を想定し、効果を試算した論文です。

その試算根拠には、731部隊が中国で細菌戦を行った際の「PX」(ペスト感染ノミのこと)の投下に関する6回分の実戦データ(細菌作戦の場所・日時と発生感染者数[計2万5946人])が用いられています。

◆本年6月15日、服部良一衆議院議員が外務委員会で、上記の金子順一論文を用いて中国における細菌戦実施が一層明確に裏づけられたことを示し、政府を追及しました。

切り取り不要

NPO法人731部隊・細菌戦資料センターの会員になってください!

【会費】正会員 年会費 3000円(随時カンパも受け付けています)

【郵便振替口座】口座番号00100-2-322516 口座名義:NPO法人731部隊・細菌戦資料センター

お名前 _____ 職業・所属など _____

ご住所 _____

電話番号 _____ FAX 番号 _____ Email アドレス _____

■ご意見

2012.7.10

主催 NPO法人 731部隊・細菌戦資料センター(共同代表・近藤昭二 松井英介 小野坂弘)

Website: <http://www.anti731saikinsen.net/> ◆お問い合わせは一瀬法律事務所:東京都港区西新橋1-21-5

Tel:03-3501-5558 Fax:03-3501-5565 / Email: info@ichinoselaw.com 担当元永(もとなが)